

CONTENTS

TOPICS

- ① センター長就任挨拶
- ② 「女性が拓く工学の未来賞」の公募を開始しました
- ③ 名古屋工業大学男女共同参画週間
- ④ NITech CAN 女性研究リーダー養成塾 第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」
- ⑤ NITech CAN 工学女子キャリア形成塾「英語プレゼンテーションセミナー」全5回
- ⑥ 2021年度(第7期)女性技術者リーダー養成塾

REPORT

第7期女性技術者リーダー養成塾 女性リーダーからのメッセージ

COLUMN

ワーク・ライフ・アンバランス 第15回 「ワーク・ライフ・アンバランスの収束」(最終回)

TOPIC 1 センター長就任挨拶

2021年4月よりセンター長に就任いたしました。2014年に当センターの前身である男女共同参画推進センターが発足し、男性に偏りがちな工学の分野に女性の視点や感性を取り込み、女性研究者が活躍しやすい環境を構築して参りました。その後ダイバーシティ推進センターに発展し、キャンパスに多種多様な価値観を持った人たちが混在する環境の構築を進めて来ております。

大学においてダイバーシティを推進する意義の一つは、多様な価値観を持つ人々や様々な意見、様々な立場の人たちと触れ合う場を設けることにより、一面的ではなく多面的に物事を見る力を涵養できる環境を提供することにあります。技術開発の場においても、このような多面的な見方が、新しい技術開発やイノベーションにつながる可能性があると考えております。

女性研究者支援制度を始めとして、女性が活躍しやすい、より多くの女性が工学分野で活躍していただけるように環境構築を引き続き進めていきます。それとともに、時代に即したダイバーシティ環境をキャンパスに作り出す原動力として、本センターが果たす役割は重要であると認識し、魅力あるキャンパスづくりに邁進いたします。今後とも、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

ダイバーシティ推進センター長 井門 康司



TOPIC 2 「女性が拓く工学の未来賞」の公募を開始しました



本年度の「女性が拓く工学の未来賞」候補者を学内公募いたします。

本賞は、優れた研究業績を挙げることが期待される女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高めダイバーシティ推進に資することを目的としています。表彰の対象は、本学で研究活動に従事する女性研究者(本学大学院在学者を含む)です。工学及び工学教育の発展に貢献する方を広く対象とします。

優秀賞…学術上優れた研究成果を挙げ、工学における女性研究者の社会的プレゼンス向上に貢献したと認められる者
奨励賞…学術上優れた研究成果を挙げることが期待される者

応募方法：所属長、指導教員からの推薦による

公募期間：2021年7月2日(金)から2021年7月30日(金)17:00まで

詳しい制度内容、申請用紙は、ダイバーシティ推進センターウェブサイトよりご確認ください



TOPIC 3 名古屋工業大学 男女共同参画週間

毎年6月23日から6月29日は、内閣府「男女共同参画共同週間」です。これに合わせて、ダイバーシティ推進センターは「名古屋工業大学男女共同参画週間」を設け、例年、図書館で男女共同参画の関連図書とポスターの展示を行っています。本年度は、新型コロナウイルス感染症の動向を鑑みて、掲示板での推薦図書のご案内と、11号館3階のダイバーシティ推進センターの窓でのポスター展示を行いました。

ダイバーシティ推進センターでは、11号館3階のi-caféにジェンダー、ダイバーシティ、男女共同参画に関する図書を豊富に揃えています。センター事務室で学生証、職員証をご提示いただければ、常時貸出しできます。ぜひ、ご利用ください。



TOPIC 4 NITech CAN 女性研究リーダー養成塾 第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」

オンライン

参加者募集中

第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」を開催します。研究を発展させるために外部資金をいかに獲得し活用していくかについて、柴田教授が豊富なご経験に基づいて講演されます。URAの薮上氏からは、申請書作成のポイントについて説明いただきます。

申込方法等については、ダイバーシティ推進センターウェブサイトの「イベント情報」よりご確認ください。

日時：2021年8月26日(木)

13:30～15:00

講師：柴田哲男教授

(生命・応用科学系プログラム)

：薮上あづさ氏

(リサーチ・アドミニストレーション室 URA)

対象：教員、研究員、大学院生(性別不問)

TOPIC 5 NITech CAN 工学女子キャリア形成塾 「英語プレゼンテーションセミナー」全5回

オンライン

受講者募集中

9月から全5回にわたって、女子大学院生・女性研究者の研究キャリア形成を目的とする英語セミナーを開催します。講師は、プレゼンテーション指導を専門とし、研究者の指導経験も豊富なタム・ヤング氏(Leafy Learn 代表)です。

5回の講習全てにご参加できる、研究キャリアを目指す本学大学院生・研究員・教員(性別不問)を対象とします。

申込方法については、ダイバーシティ推進センターウェブサイトの「イベント情報」よりご確認ください。

日程	内容
9月22日(水)	目的やアイデアを明確にしたプレゼンテーションの構成について
10月6日(水)	コンテンツ内容の詳細な分析について
10月20日(水)	プレゼンテーションのスピードや声の大きさ、発音、ボディランゲージについて
11月10日(水)	プレゼンテーションに使用するスライドについて
11月24日(水)	プレゼンテーションを行う

ヤング先生からのメッセージ

このセミナーは、講義やリスニングトレーニングではありません。受講生自身が、毎回の課題に取り組みながらステップアップして、プレゼンテーションを完成させていきます。全回休まずに出席し、毎回の宿題にきちんと取り組んでください。皆さんが、毎回前向きに課題に取り組み、着実に歩を進めることが重要です。成績評価はありませんが、毎回の講座内容に一生懸命に取り組み、最終日にプレゼンテーションを完成させることで、必ず大きな達成感が得られます。



TOPIC 6 2021年度（第7期）女性技術者リーダー養成塾



製造業に勤める女性技術者のための講座「第7期女性技術者リーダー養成塾」を名古屋工業大学ダイバーシティ推進センターの主催で8月から11月にかけて開催いたします。6月より新しいウェブサイトを開設し、7月31日まで受講生を募集しています。

2015年度に開講した本養成塾には、これまでに62社から115名の女性技術者が参加しました。ものづくり企業を担うリーダーとしてのスキルアップを目指す女性技術者の皆様に、本年度はさらに進化した学びの場をオンラインで提供します。女性技術者が長く活躍し続けるためのキャリアデザイン、チームマネジメントのためのコミュニケーションスキル、ものづくりの現場に特化したプロジェクトマネジメント、イノベーションのためのマーケティング・知財戦略という、幅広いテーマ、かつ実践的なプログラムで、女性技術者のステップアップをサポートします。

本年度は、塾長に西岡慶子氏（株式会社光機械製作所代表取締役社長）、講師陣に、新たに安藤真澄氏（株式会社電通シニア・コンサルタント）、落合清恵氏（トヨタ自動車株式会社パワートレーン製品企画部主査）、池原敏郎氏（INPIT愛知県知財総合支援窓口 事業責任者）、北村憲彦教授（名古屋工業大学ものづくりテクノセンター長）を迎えて、技術者リーダーにとって必要な知見を学べるようカリキュラムをさらに充実させています。

実施回数	講座内容
第1回	オンライン入塾式／キャリアデザイン／キャリアラダーの展望と実践
第2回	プロジェクト・マネジメント／コミュニケーションスキル／ものづくりの安全を考える
第3回	ものづくりのマネジメント／製品開発にいかすマーケティング手法／リーダーシップスタイル
第4回	知財マネジメント／成果を引き出すためのチームビルディングの実践
第5回	卒塾式・報告会「リーダーになるための行動宣言」／塾長講演「経営に活かすダイバーシティの力」

REPORT 女性技術者リーダー養成塾 女性リーダーからのメッセージ

〈第7期女性技術者リーダー養成塾 塾長〉

株式会社光機械製作所 代表取締役社長（名古屋工業大学客員教授） 西岡 慶子氏

テクノロジーの進化は従来の価値観を大きく変化させ、世界はより複雑化・多様化しています。そうしたなか、企業の持続的発展にはイノベーションの創出が必須で、その中心的な役割を担うのは技術者です。技術や雇用の未来を見据えて、キャリアデザインやチームマネジメントについて一緒に考え、リーダーとしての知見を深めていきましょう。

日本アイ・ビー・エム株式会社 執行役員（名古屋工業大学特任教授） 我妻 三佳氏

現代社会では複雑かつ多様な文化・価値観が絡み合い、また多岐に渡る専門性や資質を持つタレントがチームとして課題解決に取り組む、“共創”あるいは“協働”が必須となっています。メンバーの気持ちが一つになり、各自が能力を最大に発揮してこそ、成果が引き出せます。ある場面を想定した演習をワークショップとして実践しながら、カギとなるポイントや方法などへの理解を深めていきましょう。

トヨタ自動車株式会社 パワートレーン製品企画部 主査（名古屋工業大学特任准教授） 落合 清恵氏

本養成塾の特長は、技術者の視点でキャリアやリーダーのあり方を考えられることです。製品設計、生産技術、製造などそれぞれの領域で、ものづくり現場特有の難しさ、悩みがあると思います。企業や業種の枠を超えて交流し、一緒に、私たちらしいリーダーシップ、マネジメントのスタイルを考えていきましょう。





加藤 正史

1998年 名古屋工業大学卒

2003年 同大学大学院修了 博士（工学）

2003年 名古屋工業大学 助手

2008年～現在 名古屋工業大学 准教授（その間リトアニア国
ビリニュス大研究員、名古屋大学客員准教授 兼任）

第15回（最終回）

ワーク・ライフ・アンバランスの収束

子供の成長

親にとって子育ては大変です。特に子供が小さいうちは仕事と家庭の両立、ワーク・ライフ・バランスへの悩みは尽きません。ところが子供が成長してくると、親が子供に対してすること・できることは少なくなってきます。

そのため、親が悩むことや、悩んで意味のあると思うことは収束していきます。そんなことを感じるようになったのは、私が保育園への送り迎えから解放され、肩透かしを食らったような生活になったからでもあります。こんなに楽になっていいのかな？

連載の区切り

そしておよそ5年前からこの連載を執筆させていただいて、おかげさまで今回15回目になりました。今では上記の理由により、ワーク・ライフ・アンバランスというタイトルに相応しい内容の文章を書くことが困難になってきました（単にネタ切れです）。雑談や研究の話なら書けるのですが、それではダイバーシティ推進センターのニューズレターに載せるのに相応しくはないでしょう。ですので、これまで読んでくださった方々には突然で申し訳ありませんが、今回でこの連載は一区切りとさせていただきます。



最後に

以前に「一流になりたいなら結婚は△、出産は×」と公に述べて批判を浴びた研究者がいました。これは「一流」という単語の定義次第で、真実になったりならなかったりする、誤解を招く言葉でした。おそらく発言者の中で、多くの論文を書き学会での地位を築くことを「一流」と定義しているので、このような言葉が出てきたのだと思います。それはある意味正しく、多くの人に認識される「一流」でしょう。しかしながら例えば、出産し子育てしながらも研究を続ける行為は、違う意味で一流の研究者の振る舞いとも言えるのではないのでしょうか。また例えば一般的には研究者として認識される立場にない方が、あるきっかけで素晴らしい論文を書いた場合も、一流の研究をしたと言えるのではないのでしょうか。そしてこれは研究者の世界だけの話ではありませんが、もし子どもを産み・育てる行為に否定的な世界があったとしたら、その世界は一般の方々に愛されることはないでしょう。それゆえに上記の言葉は批判されたのかと思います。

私としては、厳しい状況にある研究者でも研究を楽しんでほしいし、研究者でない一般の方々にとっても研究が面白いものだと感じてほしいと思ってます。研究活動は一握りの「一流」研究者層だけのものではなく、様々な方々が研究に興味を持ってくださったり、間接的にでも貢献してくれたりすることで成り立っているものだからです。そのことを肝に命じて、今後も大学内のダイバーシティ推進に協力するだけでなく、多様な方々に研究というものが愛されるような活動をしていければと思っています。

ダイバーシティ推進センターには、今まで長きに渡り連載の場を与えていただき、お礼申し上げます。そして読者の皆様、ありがとうございました。

発行

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL | 052-735-5121, 052-735-5279

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」

E-MAIL | diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

URL | <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>

2021年7月発行